第１号議案

特定非営利活動法人会津ワイナリー会

２０２１年度事業報告

1. 総括

１）2 年に亘るコロナ禍と毎年起こる気象変動の中で、当会の事業も大きな影響を受けた。その中で、栽培支援者の多大な協力により事業計画目標（6 トン)、8 月時点予想（4.6 トン）を上回る 6.3 トンの収穫を得た。

２）コロナ禍の影響は、①全国的な移動自粛、3 密回避からグリーンツーリズムや試飲会の中止を余儀なくされ会員誘致、ワイン販売がともに減少した。②コロナ対策の下、年間を通して会員ボランティアによる栽培作業を継続したものの新たな現地契約者・シルバーセンターへの委託費が大きく膨張した。③移動自粛継続から実施予定の栽培パートナー制度に踏み切れなかった。

３）今年は遅霜、梅雨の降雨、一転猛暑、8 月多雨の影響により、①昨年同様 7 月中旬より灰カビ病が発生し、さらに 8 月のベト病、9 月の灰カビ病が継続的に続き収穫が 10%弱減少し、②薬剤散布、病害駆除委託費が膨張した。

４）これらは年間事業計画に対し制約を生み、①栽培パートナー制度実施②ワイナリーツーリズムによる既存ワイナリー研修③ふくしまワイン広域連携協議会参画による福島ワインカレッジ創設活動④ICT 技術の研究・活用による気象データ・作柄データ対策、獣鳥害対策　の未達事項が生まれた。また、⑤NPO と新組織の役割分担によるワイナリー事業比較検討が 12 月時点で未達となった。

５）一方、達成した事項としては、①渡辺博仁氏、橋本竜太郎氏との契約は本年度で解消し、新たな委託者「壱心」と栽培業務（薬剤散布、草刈り含む）を契約し、永続的な栽培体制を構築②シルバーセンター3 名と固定的な栽培契約をし、安定的な体制を構築③生育不良な 6・7 号畑の整備、8・9 号畑の対応準備④軽バンの取得⑤栽培サポーター制度に向けた「栽培マニュアル」作成（4～6 月分）⑥酒類販売業免許取得し 2020 ヴィンテージ 2052 本を販売⑦ぶどう販売（約 2 トン、約 80 万円）⑧醸造担当者による「テイスティングノート」発信　がある。

2. 会員勧誘活動

・目標会員数　　正会員　新勧誘目標 10 名⇒実績 9 名（賛助→正会員 2 名含む、累計 100 名）
　　賛助会員　新勧誘目標 10 名⇒実績 5 名（累計 73 名）　以上 12.31 時点

・目標会費額　　正会員・賛助会員合計　目標 162 万円⇒実績 145.6 万円

・広報活動　　ホームページからの情報発信⇒継続強化し計 57 回（うちテイスティングノート 25 回）発信と昨年比 139%、栽培作業速報、ワイン知識等内容充実

3. ぶどう栽培活動

・ぶどう苗作付　苗 10 本程度を 1 号畑から移植。

・ぶどう畑管理　計 9 反、約 350 本を栽培管理、収穫量：約 6.3 トン平均糖度：約 20 度（1～9 号畑)。芽かき、剪定・誘引、薬剤散布、ビニール掛け・撤去、副梢・花かす取り、病害除去、冬季剪定等を実施。⇒福島県下天候不良の中で 1～5 号畑の育成は良好で各畑 1 トン前後を収穫、6・7 号畑も約 0.5 トンを収穫し、年初目標 3.8 トン、8 月時点予想 4.6 トンを大きく上回った。病害による減少率は約 7%（約 500 kg)、鳥害・日照り害はそれぞれ 1%程度と少なかった。

・栽培体制　　一条悟氏の指導により新たに壱心本田圭一氏に薬剤散布、機械草刈り及び栽培業務を委託した。会員を対象としたグリーンツーリズム・栽培体験は実施できなかったが、会員有志・壱心・シルバーセンターによる体制で乗り切った。（栽培時間：合計 2400 時間のうち、委託者：318 時間、シルバー：450 時間、ボランティア：1632 時間）

4.　栽培活動（コロナ禍・移動自粛の中、グリーンツーリズムは会員有志、地元支援者により実施）

１）（4.3～4 移植）首都圏 11 名、地元支援者 5 名の 16 名で実施
２）（4.24～5.16 ビニール掛け 3 回）首都圏 16 名地元支援者 11 名シルバー6 名延 33 名で実施
３）（5.22～30 芽かき、誘引 2 回）首都圏 3 名地元支援者 2 名シルバー2 名延 7 名で実施
４）（6.5～20 誘引、副梢取り 3 回）首都圏 12 名地元支援者 4 名延 16 名で実施
５）（6.26～7.4 誘引、副梢花かす取り 2 回）首都圏 9 名地元支援者 13 名シルバー2 名延 24 名で実施
６）（7.10～8.1 病害除去、副梢取り 3 回）首都圏 14 名地元支援者 4 名シルバー4 名延 22 名で実施
７）（8.7～22 病害除去、ネット張り 3 回）首都圏 5 名地元支援者 5 名シルバー4 名延 14 名で実施
８）（8.28～9.12 病害除去、糖度測定 3 回）首都圏 17 名地元支援者 9 名シルバー6 名延 32 名で実施
９）（9.24/25、10/2 収穫 3 回）首都圏 36 名、地元支援者 20 名、シルバー6 名延 62 名で実施
１０）（10.9～10.23 ビニール撤去 3 回）首都圏 9 名地元支援者 3 名シルバー2 名延 14 名で実施
１１）（11.20～12.10 冬支度剪定 4 回）首都圏 5 名地元支援者 9 名シルバー6 名延 20 名で実施
以上 30 回の栽培作業に合計 260 名が参加、首都圏 137 名、地元支援者 85 名、シルバー38 名
１２）第１回ワイナリーツーリズム（11.27 新潟ワイナリーコースト）9 名参加

5.　助成金等の確保

・ふくしま地域産業 6 次化サポートセンター事業補助金→採択（21 年度補助金:16 万円）→逢瀬ワイナリーと共同
・福島フォレスト補助金応募（再応募）→採択（20 年度補助金:19 万円）→21 年度に繰り越し
・サントリー財団みらいチャレンジプロジェクト→不採択（21 年度補助金:69 万円）→喜多方ワイナリーJUN と共同

6.　２０２１ワイン収穫量および委託醸造

畑	1号	2号	3号	4号	5号	6号	7号	8号	9号	計
収穫量（kg）	1,156	1,014	1,240	961	1,027	496	442	13	12	6,361
委託先	逢瀬W 大和B	大和B	いわきW	逢瀬W	逢瀬W	大和B	いわきW	大和B	大和B	―

・逢瀬ワイナリーには過半を売却（1,323 kg）、3 号・7 号畑の一部はホンダワイナリーに売却（722 kg）
１）逢瀬ワイナリー約 1.0ｔ委託。9.24 納品/仕込、2 月瓶詰、3 月ラベル貼・発送予定（約 820 本）
２）大和葡萄酒約 2.3ｔ委託。9.26 納品/仕込（樽 2）、3 月瓶詰、4 月ラベル貼・発送予定（約 2140 本）
３）いわきワイナリーへ約 1.0ｔ委託。10.2 納品/仕込、3 月瓶詰、3 月ラベル貼・発送予定（約 800 本）
以上合計約 3,760 本のリリースを想定
・Ｂ級品のうち 225 kgをジュース製造（165 本）、約 160 kgをホンダワイナリーに譲渡

7.　中期計画第２年度（赤字未達事項）

(1) 作付け６年目を迎え今後５年間の栽培体制の確立

１）登録制による「栽培サポーター制度」は、コロナ禍のなか今年も実施できず次年度へ持ち越しとなった。

２）会津美里町農林部より培委託業者「壱心」を紹介いただき薬剤散布・機械草刈り・栽培業務を継続的に委託する体制ができた。

３）首都圏参加者が現地で宿泊するとともに、農業従事者誘致のための宿泊施設は有志により実施した。

4）軽バンを箱崎理事より取得し機動力を発揮した。

(2) 将来のワイナリー建設の向けた醸造技術の習得

１）福島県内既存ワイナリーとの委託醸造、ぶどう売却を通じた醸造技術習得、建設情報連携は逢瀬ワイナリー、いわきワイナリー、本田ワイナリー、ワイナリーJUN の各ワイナリーとの足掛りを築いた。

２）ワイナリーツーリズムは新潟ワイナリーコースト１回にとどまったが、小規模ワイナリー免許取得・建設にかかわる有効な情報を得た。

３)会員の赤城氏が日本ソムリエ協会呼称資格認定試験三次試験に合格し､醸造技術への協力をお願いする。

(3) 六次産業化に向けた販売ルートの確立

１）事業費確保のために、逢瀬ワイナリー（1,323 kg)、本田ワイナリー（722 kg）栽培ぶどうを外販。

２）ICT 化等に対する研究開発費取得の福島県関連補助制度は次年度以降も継続実施。

３）NPO による酒類販売免許を取得。

４）B 級ぶどうを試験的にジュース製造（165 本)・一部販売し好評を得た。

(4) ワインづくり思想に基づくワイナリー事業の検討

１）栽培、醸造、販売の六次産業化実現に向け、NPO と新組織の役割分担の検討は未達。

２）福島県内のワイナリー立地の新しい在り方、複合施設の新形態、地域活性化に熱心な自治体ヒアリング等は補助制度により一部実施したが、分析検討には至らず。

(5) ICT を活用したデータ収集、病害・獣害等への備え

１）病虫害対策を強化するために、ICT を活用した気象データ、現地作柄データのモニタリング・データ化手法を先進ワイナリー等にヒアリングし、ICT 化を今期は断念し既往データの整理により分析。

(6)　福島ワイン文化醸成に向けた広域ネットワークの構築

１）「ふくしまワイン広域連携協議会」への参画はコロナ禍にあって見送る。

２）福島県ワイン文化醸成、ふくしまワイン街道構想の足がかりは上記４ワイナリーとの連携を構築した。

8.　その他事項

１）農水省東北農政局福島支局統計チームより作柄ヒアリングを受けた。会津地域のワイン用ブドウ作柄は、遅霜に加え８月長雨の影響で、特に雨除け設備がない圃場では晩腐病、ベト病、灰カビ病が発生し、悪かった昨年ほどではないが例年の作柄は下回ったとのことである。

9.　理事体制

１）三期２年目を新たな体制で執行した。

２）9 月 26 日付で井上理事、12 月 31 日付で強口理事、1 月 11 日付で高見理事の 3 理事より今期での退任届が提出された。

以上